

いわて MTDLP 通信



NO.16 2023.12

「したい」を「できる」に！
生活行為向上マネジメント

岩手県作業療法士会

増刊号

■ 研修会報告

令和5年10月18日（水）19：00～21：00 Web開催しました。

講 師：広島大学病院 作業療法士 塩田繁人 先生

内 容：精神科領域でのMTDLP実践について

参加者：44名 精神科領域に限らず

幅広い領域の方にご参加いただきました。

～ 研修会終了後 アンケートより ～



<今回の研修会はいかがでしたか>

- ▷ 精神科領域でのお話でしたが、他の分野の作業療法支援にも通じる話でしたので、大変勉強になりました。作業療法士として刺激になりました。
- ▷ 本人の取り組みたい活動にフォーカスする手法と捉えていたが、根底に丁寧な聞き取りや詳細なアセスメント（ICF）への落とし込みがあることを教えてもらえた。
- ▷ 幻覚、認知機能の問題などといった言葉だけが先行しないように専門職として丁寧にICFで分析し、生活課題に結び付けていくことがその患者さんや利用者さんの問題解決の近道だと改めて感じました。

<一言お願いします>

- ▷ 自分であれこれ考えても Doが無いと進まないのでもまずは実行してみます。
- ▷ 考えを変えることはできないが、行動を変えることができたという言葉が響きました。
- ▷ MTDLPの習得、野球でもなんでもそうだけど、うまくなるためには繰り返しの練習が大事、肝に銘じました。

どの領域にも大切になる講義内容でモチベーションが上がる研修会となりました。

■ 事例検討会 ご案内

日 時：令和6年2月10日（土） 13：30～16：40

開催方法：現地開催を予定 ＊感染症等の状況に応じWeb開催も検討

申し込み締切：発表者 1月19日（金）、聴講者 2月2日（金）まで

申し込み方法：右のQRコードから申し込みください。

聴講はどなたでも（基礎研修未受講でも可能です）

県士会

会員専用



県士会

非会員専用



■ INTERVIEW

研修会や事例検討会に継続参加されている
川久保病院の取り組みを伺いました。



川久保病院作業療法士 藤原宏太 氏



Interviewer : 笠原

MTDLP 推進委員の笠原です。よろしくお願いします！



笠原

MTDLP を取り入れている場面を教えてください。

MTDLP を導入できているわけではなく、MTDLP のようなトップダウン型の考え方（患者、利用者の意向を確認しながら介入）を回復期、地域包括、通所リハ、訪問リハで取り入れています。



藤原



笠原

MTDLP を取り組むうえでの「業務負担や時間的制約」について、どのように取り組まれていますか？

MTDLP のフルセットを使用しているわけではなく、考え方として MTDLP に寄せた治療計画書の作成を行っています。県の MTDLP 報告会などでまとめる場合は、時間外で対応を行っています。多くは自己研鑽として行っています。



藤原



笠原

事業所として組織的に取りくむにあたり、教育体制などどのようなシステムで行っていますか？

以前は MTDLP を学ぶ学習会を開催したり、各担当が一事例まとめ、事例検討会を行うなどの機会を設けていました。
現在はコロナ感染症の流行・余波があり、継続的な学習は行えていませんが、再開できればと考えています。
全員が特定の時期になったら県の報告会で事例報告をすることを呼びかけています。そうもしないと腰が上がらない人が多いとも思っていますので、機械的に「次は〇〇さんの番だから一緒にまとめる準備しよう」など声をかけています。また、報告経験者たちがこれから報告を控えている職員のアドバイザーとして関わっています。これらを継続していることが、当院が継続して報告会や研修会に参加出来ている要因かと思います。（なかなか強制的ですね 笑）



藤原



笠原

MTDLP を継続して取り組むために大切なことは何でしょうか？

MTDLP は「作業療法士の頭の中（臨床思考過程）を表現したツール」と、表現されていたのがとても印象的であり、衝撃的でした。

いま目の前にいる患者さんに対しての介入が、後々どんな活動、どんな参加、どのような場面に結び付くのかイメージし担当している OT が語れるようになっている状態が個人的には理想だと思います。

そのために患者さん本人の身体・精神・心理機能を評価し、ご本人を取り巻く環境の情報を整理することでやっとマネジメントする準備が整い、情報をどのように統合するか。MTDLP はこれらの情報を整理し具体化することを手助けしてくれるツールなのではないかと思っています。と同時に、書類が多く情報も膨大となりやすいため臨床実践の場では毛嫌いされている理由の一つでもあると思います。しかし、トレーニングがなければいざという時に使えないとも思っていますので、まずは毛嫌いせずに一度事例をまとめてみるのが大切かと思っています。

最近の話ですが、MTDLP のツールの一部を活用した職員から「こんなに他人（OT）に自分の話をしたことがない」と患者さんから言われたと報告を受けました。患者さんが普段思っけていても口にしていない事、誰かに伝えたことがないことなど実はあるのかと思います。それらを MTDLP のツールを使用し引き出すことで、その患者さんが望んでいる支援に近いものが提供できる可能性があると考えます。



藤原



笠原

大変参考になる貴重なお話を、ありがとうございました！

実践活用や事例発表の問い合わせ先 mtdlp-info@iwate-ot.or.jp

作成：MTDLP 推進委員会（笠原、林）